

木材の種類

無垢材

- ・ 1本の木から採取できるつなぎ目のない材で、柱や梁に使用することを希望する方が多いようです。
- ・ シックハウス症候群の要因となる接着剤を使用していないため、自然の温もりが感じられますが、狂い（割れや反り）が出る可能性があります。
- ・ 高級感（長年使うことで深い飴色になり木目も美しくなっていきます。）はありますが、高価になります。



集成材

- ・ 集成材（しゅうせいざい）とは、断面寸法の小さい木材（板材）を乾燥させ接着剤で張り合わせた木材で、無垢材より安価です。
- ・ シックハウス症候群の要因となる接着剤※を使用しているが、乾燥した無垢材と同程度の強度をもち、狂い（割れや反り）が出にくいメリットがあります。
- ・ 集成材は、かなり大きな材が作れる為、元々大径木しか使えなかったような太くて長い梁や柱、大きな幅が必要な板などの代わりとして利用されています。
- ・ 集成材は、反りや狂いが出にくく、強度が安定しているため、強度計算がしやすい上に太い材とは違い、ひとつひとつが小さい事から乾燥が容易で一度乾燥した材を集成して作っているため割れを起こしにくいなどの利点を持っています。



※ 健康害の少ない接着剤も開発されている。

CLT（直交集成板）

- ・ ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した厚みのあるパネルです。
- ・ CLTは、構造躯体として建物を支えると共に、断熱性や遮炎性、遮熱性、遮音性などの複合的な効果も期待できます。また、構造材の他、土木用材、家具などにも使用されています。

合板材

- ・ 丸太を丸剥きした単板（ベニヤ）を、繊維方向が互いに直交するように、3枚、4枚、5枚と奇数枚積層接着した材料です。
- ・ 長所は、収縮・膨張が少ないことです。
- ・ 短所は、木口への釘が効きにくことや、質感に欠けることです。



パーティクルボード（削片板）

- ・ 木材を削ったり、破碎した小片（工場廃材、建築解体材等）を板状に成形接着した材料です。
- ・ 長所は、どのような形状の材も原料として利用でき、断熱や遮音性に優れていることです。
- ・ 短所は、湿気に弱いことです。
- ・ 用途としては、建築の下地材、家具心板などに使われています。



ファイバーボード（繊維板）

- ・ 木材を繊維の状態にまでほぐし、再成形した板材料です。
- ・ 長所は、均質で加工性がよいことです。
- ・ 用途としては、建材、家具などに使われています。
- ・ ファイバーボードの種類には、インシュレーションボード（軟質繊維板）、MDF（中質繊維板）、ハードボード（硬質繊維板）があります。

曲木

- ・ 曲木は、木材を十分に蒸煮し、軟化させて曲型に沿って曲げる方法でつくられる部材です。ゆるやかな曲線は、スツール、ロッキングチェアなどに活かされています。
- ・ 曲木に適した材料としては、ブナ、ナラ、タモなどがあります。

